

# 令和6年度「おおたわら福祉教育（ふくし共育）研修会」実施要項

## 学校と地域がつながるふくし共育

～ヤングケアラーの視点から考える～

### 1 経 緯

今日、地域のつながりの希薄化、社会的孤立が大きな問題となっています。学校・地域・社協が協力し合い、子どもの学びと地域の生活をつなぎ、子ども自身が地域とのつながりがもてるように、また、次代を担う子どもたちを地域みんなで育てていけるようなまちづくりが求められています。

市社協では、平成29年度より児童・生徒が地域の方とともに地域の課題を考える「学校と地域がつながるふくし共育（福祉教育）プログラム」を推進しています。

さらに、従来の高齢者、障がい者理解にとどまらず、地域に暮らす様々な人と助け合い支え合って、ともに生きることをあさ目指し、自分の住む地域とそこに住む様々な人々に関心をもち、実際の地域での福祉課題から学ぶことが重要となっていくます。

### 2 目 的

核家族化、ひとり親家庭の増加等による社会変化に伴い、ヤングケアラーの課題が全国的に取り上げられるようになっていきます。ヤングケアラーの問題は表面化されづらく、当事者自身の自覚がない、また「助けて」の声を出すことができない等、学校、地域として、ヤングケアラーをどう支えていくかが課題となっています。

本研修では、ヤングケアラーという問題に対し、当事者の視点や支援者の視点を踏まえ、子どもたちの学びにどう活かしていくか、また学校、地域がどうかかわっていいのかを考える一歩とすることを目的に実施します。

### 3 日時・会場

日 時	会 場
11月28日（木） 午後2時00分～4時30分	金田北地区公民館 （大田原市市野沢1998-1）

### 4 参加対象 50～60名

- 教員：市内小・中学校、高等学校福祉教育担当者
- 地域：地区社会福祉協議会
- ボランティア：ふくし共育ボランティアグループ ささえ
- 児童福祉関係：こども幸福課
- 教育委員会関係：市教育委員会学校教育課 等

### 5 講 師

国際医療福祉大学医療福祉学部医療福祉・マネジメント学科 中村 哲也 氏  
一般社団法人とちぎ市民協働研究会 代表理事・社会教育士 廣瀬 隆人 氏

### 6 内 容 講話・パネルディスカッション、グループワーク

### 7 申込み・問合せ 11月14日（木）までに市社会福祉協議会へお申し込みください。

主 催	社会福祉法人大田原市社会福祉協議会
TEL	: 0287-23-1130
FAX	: 0287-23-1138
〒324-0041	大田原市本町1-3-1 大田原市役所 A 別館1階
担当	: 高崎、小滝、後藤

# まとめ

## ○すべてのことには理由がある

### 支援者 A さん

- ・言葉の重み、言葉の持つイメージや価値観について
- …「不登校」の子どもが家に引きこもりゲームをしているという事実を聞くと、ダラダラしているという印象をうける。しかし、本人にとってゲームとはつらい思いを忘れるための行為。
- ・誰かのせいにするのはやめよう

## ○当事者が周囲に自身の状況を発信しても良いのかもしれない

### 当事者 B さん

- ・親に恥をかかせることになるかもしれないという恐れもあったが、公開したことで助けてもらえるようになった。

### 当事者 C さん

- ・地域の人とのつながりは当時からもっていた。多くの助けを得ていた。

自分は「ヤングケアラー」なの？ --- 周りが支えてくれる事が重要

## ○常識は一つではない

### 当事者 C さん

- ・両親の介助は当たり前のものであり、大変さは感じていなかった。

### 当事者 B さん

言葉が出たことで世の中は何か変わったのか？

- ・当たり前だったのに自分も「ヤングケアラー」に当てはめられてしまうようになった。

### ★「記号化」について

個別化が失われてしまう。それぞれ家庭環境は全く異なっているのに同じ言葉で括られる。

## ○何をしてほしいのか

### 当事者 C さん

- ・めずらしそうに見られることがある。そんな中声をかけてくれる人もおり、そういった人には救われる思いをする。
- ・見ただけで悩みに気付くのは難しい。
- 声をかけてもらうこと(ちょっとした一言)自体がうれしい。

### 当事者 B さん

- ・言葉の伝え方について
- …「自分の人生なんだから～」という言い回しは選択の余地が少ない側にとって辛いもの。
- ・寄り添った考えを持ってほしい
- …相談に乗ってほしいわけではない。声掛けや、そばにいてくれると嬉しい。

★SOS を出せないで孤立している子ども、自身が困難な状況にいることに気づかず孤立している子ども、地域としてできることはなにかあるのか。

介護保険が出来るまでは、介護は全て家庭の中に押し込められてきた  
→ 誰かが苦勞して苦しんで来た